

うかる受験生の親は知っている

# 3つの法則

*Relationship*

村田 明彦

無条件の愛とは？



わたしの書籍、『E判定からの大逆転勉強法』の「おわりに」に、当塾創始者である南極老人の言葉があります。実は、これこそが大学受験成功の最大の秘訣といえます。

く南極老人からのメッセーじく

―あなたが、大学受験生のお父さん、お母さんなら。

お子さんを、100%無条件で、信じてあげてください。

わたしのお願いはたったこれだけです。

そして、これが大学受験の極意です。

“100%無条件で”がわかりにくければ、例えば、想像してみてください。  
お子さんが誘拐されたとします。犯人から電話がかかってきて、

「子どもの命を助けてほしければ、一千万円持ってこい」  
と脅おどされた時って、どんなお気持ちでしょうか。

「生きてさえいてくれれば……」と思うでしょう。

それが、100%無条件の愛です。

「生きてさえいてくれれば、それ以上は、何も望まない」  
というのが、本物の愛です。

お父さん、お母さんが、

いつも、そういうお気持ちなら、お子さんはいつも幸せです。

幸せな子どもは、強制されなくても、しぜんと勉強します。

「勉強しなさい」と言うのは、実は、逆効果です。

言えば言うほど、合格できません。（保証します。）

勉強しないから怒るとか、

テストでいい点数をとらないと認めてあげないとか。

そういうのは取り引きであって、本物の愛じゃありません。

相手の全存在を、無条件で認めるのが愛なのです。

どうか、お子さんが自発的に勉強するのを、ひたすら待ってあげてください。

本気に火がつくまで、毎日、美味しいご飯を作って、

あたたかく見守ってあげてください。

その上で、お父さんとお母さんの仲が良かったら、

もう言うことはありません。必ずや、成功するでしょう。

実は、これは潜在意識を超える、純粹意識を使った、大学受験の極意です。

―あなたが、大学受験生なら。

毎日、次のセリフを、心の中で言い続けてください。

「お父さん、お母さん、ありがとうございます」

そして、毎日30分、あなたの身のまわりを掃除してください。  
たったこれだけです。

たったこれだけで、だんだん、努力が報われるようになります。  
本当ですよ。信じてください。

ふっちゃん、本気で、ありがとう……、なんて思ってもいいですから。  
毎日、百回以上、言い続けて下さい。

特に、お父さん、お母さんのことが嫌いな人には、効果絶大です。

「掃除してください」がピンとこない人は、要は、誰かが喜ぶことをすればいいのです。  
キレイに掃除をして喜ばない人はいませんからね。

理屈じゃありません。実践です。

やるか、やらないかです。

実はこれも、潜在意識を超える、純粹意識を使った大学受験の極意です。  
極意とは、何事も、理屈ぬきに実践する人だけが会得できるのです。

南極老人拝





## はじめに

不思議なもので、長年、受験指導をしていると

**「この子は、このままいったら、落ちる（受かる）」**

ということが、一目見ただけで、わかるようになってきました。

合格できない受験生には、典型的な性格のパターンがあります。  
なかでも特に多いのは、次ページの4つのタイプです。

もし「うちの子も当てはまってるかも…」と、少しでも思われたなら、ぜひとも本書を最後までお読みいただきたい。絶対にお役に立ちますから。



実は、大学受験において学力を上げることが、それほど難しくありません。勉強法さえ間違わなければ、ゼロからでも何とかできます。夏までに基礎を完成させて、あと半年、死ぬ気でやれば、たいいていの大学は合格圏内に入ります。

## 合格できない受験生の性格パターン

### I ぐうたらタイプ

何に対しても無気力。部屋も散らかっていて、朝も自分で起きられない。



### II しょぼくれタイプ

自信がなく、セルフイメージが低い。すぐにあきらめて、根気がない。



### III のりりくらしタイプ

逃げ癖がある。辛くなったらすぐ、ラクな方へいく。いざとなったら親が尻ぬぐいしてくれると思いつけている。



### IV いい子ちゃんタイプ

まわりの目を気にして、いい子を演じている。愛想よくマジメだけれど、自分の意思がなくいつも悩みがら。女の子に多い。



ところが、さきほど挙げたタイプの受験生は、その性格的な弱点があるゆえに勉強に没頭できず、伸び悩むのです。

では、どうすればいいのでしょうか？

もはや**性格を変える**しかありません。

けれど、例えばお子さんが18歳だとすれば、その性格は18年間もの蓄積によって築かれたものですから、それを大学受験のわずかな期間で変えるのは、至難のワザ。

だからこそ、親御さまの協力が欠かせないのです。

この際、ハッキリと申し上げますが、今のお子さんの性格は、ほぼ9割方、親御さんの接し方や、家庭環境によってつくりだされたものです。

ですから、もし子どもに「変わってほしい」「なんとしても合格を」とお望みなら、「接し方」を今までとはガラッと変えていただく必要があります。

それほど、親の影響は強大なのです。

決して大きさではなく、**「大学受験は、親が9割」**と言ってもいいでしょう。

ミスターステップアップでは、毎年、「親御さんからのどんな応援が、子どもの後押しになるのか」を、個人面談や勉強会を通して、お伝えしてきました。

そうして、当塾の方針にご賛同いただき、タツグを組んだことで、子どものパフォーマンスが高まり奇跡が起きた、という事例が続出しています。

親御さんからは、

**「今までの子育ては、間違いたら良かったとわかりました」**

**「こんなに大事な話なら、もっと早く知リたかった」**

といったお声を、たくさんいただくようになりました。

そこで、あなたのお子さまが、悔いのない受験勉強ができるようにポイントを絞って、わかりやすく記したのが本書です。

きっとこの中から、合格の手がかりを見つけて頂けるでしょう。

お子さまの幸せな受験生活と、将来のご活躍を、心から願っています。

大学受験塾ミスターステップアップ塾長 村田明彦

無条件の愛とは？	2
はじめに	8

## 01 心配の法則

最も多い親子の失敗パターン	17
なぜ、心配は逆効果なのか？	19
知っておきたい心の習性	22
「やりたいことがない」という子はどうすれば？	26
時代はここまで変わった	27
本気になれない最大の理由	29
中学、高校受験と大学受験のちがいは？	32
本気になれる“環境”をつくる	35
「やりたいことがない」のはマトモ？	40

## 02

### 愛情の法則

意外すぎる合格の秘訣	47
なぜヤル気になれないのか？	
「愛情の法則」とは？	48
愛情欲求と独立欲求	52
人には「器」がある	53
食べ方を変えたら、願いが叶う	56
	61

## 03

### 観測者効果の法則

たった一言が運命を分ける	67
崖っぷちから早稲田に合格した東くん	
優秀な西原君が本番で大失敗した理由	71
	69

「観測者効果の法則」とは？

子どもの本当の顔は見えない

78 76

脱！ 甘えの構造

80

正しい「期待」の持ち方

82

最強のチームワーク

84

おわりに

89

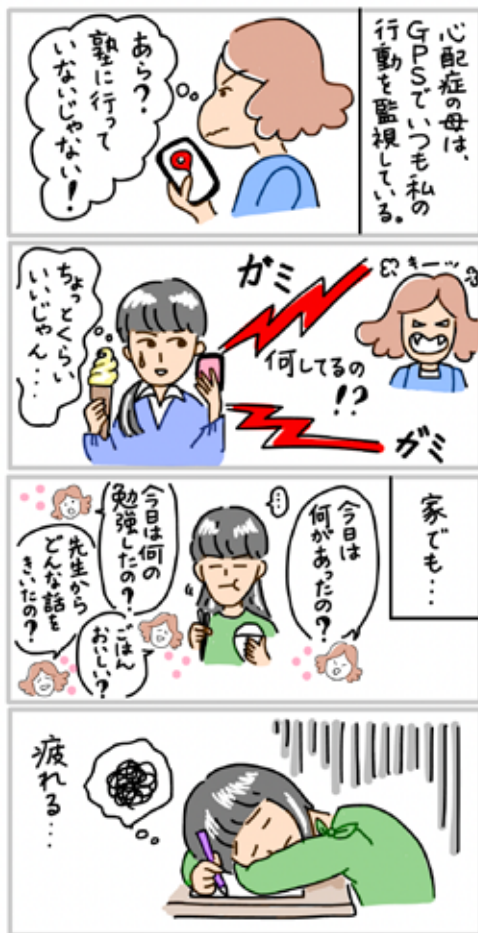


*Principle 01*


# 心配の法則

親の心配は逆効果。  
百害あって、一利なし。

## 心配しすぎると...







## 最も多い親子の失敗パターン

うちの子、全く勉強しないんです。

どうしたら勉強するようになりますか？

親御さんからお聞きする、もっとも多い質問です。

お気持ちには、よくわかります。ですが残念なことに、子どもの受験に親御さんが手出し口出しをされて、うまくいったケースは、過去に例がありません。

親が「良かれ」と思ってやっ**てあげて**いることですら、実は、子どものモチベーションを著しく下げてしま**っている**ことも多いのです。

こんなにやっ**てあげて**いるのに、なぜ？

そう思われたことがある方は、ぜひ、次にご紹介する「心配の法則」について、ご一読ください。親子が**かみあわ**ない理由がみえてくるでしょう。

かつて塾生だった、高校3年の美奈さんの話です。

彼女の悩みの種は、心配性すぎるお母さんの存在でした。お母さんが毎日のように「美奈、大丈夫？」「ちゃんとやってるの？」と、まるで詮索するように聞いてくるのです。

その心配性は常軌を逸いっして、美奈さんにGPSを持たせるほど。美奈さんが寄り道していたら、「あんた、塾に行つてないやないの！」と電話がかかってくるのです。

さらに自宅には、美奈さんの部屋がなく、リビングなどの共有スペースにしか居場所がありません。まるで監視されているように、「今日は何をしていたの？」「先生からどんな話を聞いたの？」と根掘り葉掘り聞かれたうえ、手帳をチェックされる。

美奈さんは、それがイヤで、すぐお風呂に入るので、お風呂でやっと一息つけると思ったら、脱衣所から母親が話しかけてくる……。

わたしに相談してきたときは、もうノイローゼ寸前でした。

このような、親の過干渉は、ここ最近、特に増えています。



## なぜ、心配は逆効果なのか？

この話は極端きょくたんな例ですから、「ウチは、そこまでしてないから大丈夫」と思われるかもしれないですね。けれど、いくら過干渉になっていたとしても、だいたい、親御さん自身は、それを自覚されていないものです。

美奈さんのお母さんもそうでした。

わたしは、美奈さんから相談を受けて、さすがにやりすぎだと思い、お母さまと話をしました。すると、こうおっしゃっていました。

「先生は、美奈の味方になってばかりで、わたしの味方には、なってくれないんですか？」

娘の受験がうまくいくように、母親もがんばっているのに、誰も分かってくれないと悲しんでおられたのです。

お母さんの異常なまでの過干渉のウラにあったのは

「第一志望に合格できなかったら、この子は就職できない……」

「もし、そうになったら、夫や親せきから、ダメな母と言われる……」  
といった、さまざまな不安でした。

それを相談できる相手もおらず、苦しんでおられたのです。

わたしは、お母さんに、こう言いました。

「わたしたちも、お母さまも、目指すところは同じです。」

美奈さんに、最高の受験をしてほしい、ということですよね。

だからこそ、率直に申し上げます。

お母さまの心配は “逆効果” なんです。

もちろん、お母さまが美奈さんを心配されるお気持ちはわかります。

ですが、思春期を過ぎた子どもは、その言葉や行動の裏に見え隠れするお母さまの本心

に、敏感に反応します。

手出しをしないと不安、放っておけない、という気持ち。それを子どもは『わたしは信じてもらってないんだ』というメッセージとして受けとります。

だから、美奈さんは、何か言われるたびに元気をなくしていくんです。

大学受験をする年齢ともなると、もう大人です。

社会的にも、精神的にも、自分の足で立ちたい、と思うものです。

だから、たいてい親の言うことを素直に聞けなくなります。

そのとき、なんでこんな子になってしまったのか…、こんなに心配してるのに…と、  
く親御様もいらっしやいます。いいえ、違います。

その変化は自然なことであり、自立への喜ばしい一歩なんです。

美奈さんは、もう大人です。信じてあげてください。

そして、わたしたちに、任せてください」

そうお話しして、ご納得いただきました。それから、お母さんの美奈さんへの態度は180度、変わったといえます。すると美奈さんも、みるみる自信を取り戻し、最後は見事、第一志望合格を勝ち取ったのです。



### 知っておきたい心の習性

親の不安は、子どもに伝染します。

だから、「もしこうなったらどうしよう……」と親が心配して、ネガティブなイメージをすればするほど、子どもは調子を崩しやすくなります。皮肉にも、恐れていたネガティブな未来が実現する方へ、向かってしまうのです。

親が子を心配すればするほど、「逆効果」になる。そうしたケースを、わたしは塾講師としてイヤというほど見てきました。それこそ何百件もです。

もはや「法則」と言ってもいいくらい、**百発百中で、親御さんの心配は裏目に出してしまう**ものなのです。

しかし、単に「心配しないでください」と言っても、なかなか心配は拭えないものです。ですからこの続きでは、その解決策についてもお伝えしていきます。

そもそも心配というのは、してもしても、キリがありません。

これは親御さんだけでなく、受験生本人にも言えることです。

たとえば受験生なら「ほんとに合格できるかな……」という心配はつきものです。わたしたちはそういう塾生にこう伝えます。

**「合格できるかな……」ではなく、「合格できるとしたら……」と考えなさい、と。**

実は、心というものは、自動誘導ミサイルのように、強く思ったことのを自動的に見つけようとする性質があります。その働きを「潜在意識」といいます。

だから、「合格できるとしたら、何をすればよいか」と考えるようにすると、心は懸命にその答えをさがそうとして、あるときは、勉強を教えてくれる良い先生を見つかったり、またあるときは、良い教材を見つかったりしてくれるのです。

しかし、「自分は合格できるのか……？」と考えてしまうと、さがしても、さがしても、

答えは見つからず、心は途方に暮れてしまいます。

すると、さすがの自動誘導ミサイルも、どこに飛んで行ったらいいかわからず、やがて（心の）燃料が切れて、墜落（無気力化）してしまう。


だから心配は、百害あって一利なし、と言えるのです。

そもそも「合格できるのか……？」なんて、この地球上の誰にもわかりません。考えれば、考えるほど、元気を失い、頭の回転も、運も悪くなります。

ところが、「合格できるとしたら……」と考えると、やる気も、根気も、積極性も、アイデアも、どんどん湧いてきて、頭の回転も、運も良くなります。

ですから、子どもの将来に対して、**たとえ根拠がなくても、良い予感**を持ってあげることが大切なのです。





幼い子どもにとって、母親は神のようなものだ。


神のような存在に逆らうことなどできない。

母親に愛されたいがゆえに、子どもは母親の期待することに応えようとする。

しかし、いつまでもその関係が続けることは、

子どもが自分自身を確立し、自立していくというプロセスを妨げてしまう。

(精神科医 岡田クリニック院長 岡田尊司)





「やりたいことがない」という子はどうすれば？

「進路は、あなたが自由に決めなさい」

子どもにそう伝えてはみたものの、本人は「やりたいことがない」を理由に、のらりくらりと過ごす日々。「このままじゃ、入試が終わってしまう……」と、心配される親御さんは少なくありません。

だからといって「うちの子は、自分では何も決められないから、親が決めてあげないとダメなんだわ……」と、強制的に予備校に行かせようとしたり、「勉強しなさい！」なんて言おうものなら、それこそ逆効果です。

子どもは反発するか、もしくは親の顔色を伺って、や

(複数回答形式・3つまで) ※高校生の回答結果を表示

男子高校生 (n=400)			女子高校生 (n=400)		
		%			%
1位	ITエンジニア・プログラマー	20.8	1位	公務員	15.0
2位	社長などの会社経営者・起業家	16.8	2位	看護師	11.0
3位	YouTubeなどの動画投稿者	12.8	3位	歌手・俳優・声優などの芸能人	8.8
4位	ゲームクリエイター	12.3	4位	カウンセラーや臨床心理士	8.5
5位	ものづくりエンジニア (自動車設計や開発など)	11.3	5位	会社員	8.0
6位	公務員	10.3	6位	教師・教員	7.8
7位	プロスポーツプレイヤー	9.3		保育士・幼稚園教諭	7.8
8位	教師・教員	7.3	8位	絵を描く職業 (漫画家・イラストレーター・アニメーター)	7.3
9位	会社員	6.8	9位	文章を書く職業 (作家・ライターなど)	6.8
	学術研究者	6.8		ショップ店員	6.8

(出典) ソニー生命・中高生が思い描く将来についての意識調査2019より

りたくもない勉強を義務的にこなそうとして、ますます元気を失います。このような場合、受験生の親として、何ができるのでしょうか？



### 時代はここまで変わった

ここで、ご覧いただきたいデータがあります。

高校生の「将来なりたい職業」のランキングです。

見ると、技術者、起業家、クリエイター、カウンセラーなど、さほど学歴を必要としない職業が上位を占めます。

一昔前までは、有名大学に入り、安定した収入を得ることが、社会で成功するための必須条件だと、まるで神話のように信じられていました。

そのため、子どもにもエリートコース（一流企業、公務員、医師、弁護士……）を望ま

れる親御さんは多いのです。

しかし、もはや時代は変わった、と言っていいでしょう。

今や、大手銀行すら経営破綻する時代です。

名だたる大企業が、突如、倒産することもあります。

それだけではありません。価値観やライフスタイルも多様化し、“新しい職業”が次々に生まれています。

そうした時代の変化を鑑みても、

**〇〇大学に行きなさい！（…就職がいいから）**

**医学部に行きなさい！（…将来安泰だから）**

**もっと勉強しなさい！（…やらなきゃ、将来、苦勞するから）**

という理屈を並べるだけでは、子どもの心は動かないのです。

もちろん、社会の実情を見ますと、学歴社会は今も顕在です。

有名大学に入ったほうが、将来の選択肢が広がる。平均年収も高くなる。それは紛れもない事実でしょう。でも、それを根拠に受験勉強の大切さを説いても、なかなか受験生には響きません。

受験に本気になれない若者の多くは、「ぶっちゃけ、大学なんか行かなくても、いい人  
生歩めるでしょ」とすら思っています。

そんな受験生が本気になれるのは、どんな時だと思われませんか？



### 本気になれない最大の理由

お子さんが本気になれないとしたら、理由は一つしかありません。

「受験勉強することを、**心から**かっこいい**と思えていないから**」です。

たとえば学生の頃、こんな経験をされたことがありますか？

学校で「あのかっこいい先輩に近づきたい」と思って、なんでもマネをしたとか。

好きな芸能人やスポーツ選手を見て「将来、自分もあんな風になりたい」と憧れて、無  
我夢中に努力したとか。

強烈な「憧れ」に向かうとき、はじめて人は本気になれるのです。

そして、努力すら「快い」と感じられるようになります。

そうです！ いかなる目的であれ、そこに向かうプロセスで「快き」を体感できなければ、努力は長続きしません。これは大人でも子どもでも同じでしょう。受験勉強のみならず、仕事にも言えることではないでしょうか。

「快き」も感じないまま、「エラくなるために努力するのだ」とか「世のため人のために努力するのだ」といった、お決まりのタテマエをただ唱えるだけでは、本気にはなれないのです。よって、成績も伸びないと言わざるを得ません。

実は、わたし自身も、高校生の頃は勉強が好きではありませんでした。

親や先生に褒められるためとか、誰かに認められたいとか、あいつを見返してやりたいとか、そういう気持ちから「やってやる」と思うことはありましたよ。でも、そういうヤル気は、長続きしませんでした。

そんなとき、塾長の南極老人に出会い、別人のように変わることができたのです。

南極老人の見識けんしきの深さ、人への優しさ、そして塾生の一人ひとりに真剣に向き合っている姿勢に感動し、素直に「こんなカッコいい大人になりたい」と思いました。気づけば、嫌いだっただけの勉強すら、楽しめるようになっていたのですから、憧れの力、恐るべし。

あれから時が経ち、今やわたしも教える側の人間になりました。受験生を感化できるような大人であらねばと、己を鍛える毎日です。

ちなみに、受験生が憧れる大人のイメージはこのような人のようです。

- ・好きなことに打ち込んで、楽しそうに働く大人
- ・話がおもしろくて、いろんなことを知っている大人
- ・権威や肩書きを振りかざすことなく、人間力で勝負できる大人

若くして、このような大人に出会うことができるのは、幸運なことですね。



## 中学、高校受験と大学受験のちがい

大学受験は、“自発性”に目覚めた者が勝ちます。

多少の学力差があっても、みずから目的に目覚めて、本気で勉強すれば、偏差値の10や20は簡単にひっくり返る世界なのです。

ここで一つお伝えしておきたいのですが、**中学受験や高校受験と、大学受験は、まったく別物**だと考えなくてはなりません。

ある一定の年齢までは、ただ親や先生から言われるがまま勉強して、トップクラスの成績を維持する子がいます。でも高1くらいまでは成績優秀だったのに、大学受験が近づくとつれてまったく成績が伸びなくなる生徒が、実はすごく多いのです。

また逆に、中学では平均以下の成績だった生徒が、大学受験で猛勉強をして、東大、京大、医学部、早慶上智などの最難関に合格することも、十分にありえるのです。

どうしてこんな違いが生まれるのか。理由があります。



一言でいうと、「成長段階」が変わるからです。

15歳を過ぎる頃から、だんだん自分のアイデンティティ（自己同一性）を求めるようになります。

「自分はどんな人生を歩みたいか？」

「どんな人間でありたいか？」

それを、真剣に考えるようになる。だから、ただ周りの大人の言うとおりにしている自分に、居心地の悪さを感じるようになっていきます。

その結果、親の言いなりで勉強していても、成績が伸びなくなるのです。

なかには例外的に、言われるがままに我慢しながら勉強して、目標の大学に合格する受験生もいます。スパルタの詰め込み式で勉強すれば、ある程度、成績は伸びますから。

でも、そういう受験生は、大学で、もしくは社会に出てから苦勞することが多いのです。大学受験のときに、自分の本音と向き合うことを避けた分だけ、あとでしっぺ返し（反動）

がくるからです。

例えば、大学生になってから、飲み会、コンパ、サークル、ギャンプル…と、遊びまくるようになってしまったり。逆に、伸びきったゴムのように力を失って、**何もやる気がしない状態（燃え尽き症候群）**になったり。それどころか、本来、もっと伸びるはずだった可能性も断たれて、生きる活力のようなものまで失ってしまうことも。

すると、大学に入り、いい歳になっているのに…:

- ・ やりたいことがわからない
  - ・ 理想も目標もない
  - ・ 仕事にやりがいを感じない
  - ・ 意思が弱く自分の人生を決められない
- 要するに、いつまでも自立できない状態に陥りかねないのです。

ですから、受験生の本心を無視して、「勉強しなさい！」と追い立てるのは、あまり得策とは言えないでしょう。

重要なことは、周囲の大人が、いかに“本気”にさせてあげられるかです。

わたしたち塾講師は、塾生たちの将来をお預かりする立場ですから、それこそ重大な責任があります。だからこそ、「結果（受験の合否）」はもちろんですが、そこへ向かう「過程」<sup>プロセス</sup>も大切になっています。

なぜなら、**受験勉強にどのような姿勢で向き合うかが、その子の5年先、10年先を決める**と思っているからです。いえ、事実、そうなのです。

みずから「勉強したい！」と本気になった生徒は、まわりの予想を超えるような大学に見事合格していきます。それだけではなく、受験を終えた頃には、ひと回りもふた回りも成長し、大人びた表情になっていくのです。



本気になれる、環境をつくる

これまでの話をまとめますと、親御さんにしかできない役割が見えてきます。

それは、子どもが自発的な勉強に目覚められるような「環境」を用意してあげることです。

**「人間は環境に依存する生き物だ」という言葉がありません。**

環境によって、考え方も、生き方も、作られていくのです。

この言葉は、二つの意味を表しています。

**①人間はいかなる努力をしようとも、環境には逆らえない。**

**②環境を利用すれば、なりたいたい自分になることができる。**

さきほど、高校生の「将来になりたい職業ランキング」をご覧いただきましたが、上位にランクインしているのは、「エンジニア、プログラマー、YouTuber、カウンセラー」など、一部の職種に偏っていました。

高校生にとって身近な職業しか、ランクインしていないのです。

つまり、将来の夢や目標すらも、「環境」によって決まると言えます。

たとえば、日本一偏差値が高い灘<sup>なだ</sup>高校の生徒は、学年の半数が東大に合格します。

「志望校は、とりあえず東大」、「まあ、東大くらい余裕でしょ」というのが灘校生にとっては当たり前の感覚なのです。

そのような環境の中にいたら、誰かに強制されなくても、勝手に一流大学を目指して勉強するようになるものです。

もちろん、あなたのお子さんをいままさら進学校に転校させることはできないでしょう。けれど、できる限り「良い環境」を与えてあげることが可能です。

環境の重要性を示す、こんな研究データもあります。（下表参照）家の蔵書が多いほど、学歴も高くなりやすい、というものです。

蔵書が多いということは、幼少期から、たくさんの本を通して、広い教養に触れられる環境があったので

**表 家に本が多くあると学歴も高くなりやすい**

家にあった本の数	本人の学歴		
	中学卒業程度	高校卒業程度	大学卒業程度
10冊以下	8.9%	<b>68.7%</b>	22.3%
11~25冊	2.3%	<b>55.7%</b>	42%
26~100冊	1.1%	41.2%	<b>57.7%</b>
101~200冊	1.1%	33.7%	<b>65.2%</b>
201~500冊	0%	31.1%	<b>68.9%</b>
501冊以上	0%	22.6%	<b>77.4%</b>

（出所）15年SSM調査に基づく、橋本健二さんによる計算。20~39才を対象として集計

す。そして、親が読書家なのでしよう。

何度も申します通り、親の立場から「勉強しなさい」とか「あなたの将来は……」と強要するのは逆効果です。そうではなく、勉強したくなかったときに、好きなだけ勉強できる環境を先に用意してあげるのです。

たとえば、子どもが興味を持ちそうな分野の雑誌や本を紹介したり、大学に関する情報を教えてあげたり、人と出会うチャンスを与えたり。方法はいくらでもあります。


ぜひ、当塾の書籍やYouTubeチャンネルも、薦めてあげてください。

その上で、お父さん、お母さんご自身が「勉強好き」であれば、間違いなくお子さんも勉強が好きになるはずですよ。

お仕事のこと、趣味のこと、芸術や文学、なんでも構いません。ご両親が何かに対して熱心に、かつ楽しみながら学び続けておられることが、受験生にとってこの上ない環境といえます。

子どもは、**親の言葉は聞かなくても、親の背中をよく見ているのです。**

親が生きがいをもって活動している姿を見せること。これが、子どもへの最高の教育なのです。



子どもにとっては親の生き方こそが  
最高の教材になります。

子どもは「親の言う通りにはしないが、  
親のする通りにはする」からです。

(ジョセフ・マーフィー)





「やりたいことがない」のはマトモ？

もし、お子さんが「将来やりたいことがない」「いきたい学部がみつからない」という状態でも、心配はいりません。これから、その理由をお伝えしましょう。

世間では

「自分は将来、医者になりたい！」

「政治家になって世の中を変える」

「会社の社長になる」

と、まるで模範解答のように夢を語る受験生がいたら、「○○くんは夢があっといういね」「目標があっといういね」と言われたりします。

しかし、果たして本当にそうでしょうか？

受験指導をしているとわかりますが、半数くらいの高校生、浪人生が持っている「夢」



や「目標」は、正直なところ、親兄弟からの受け売りです。

もしくは、あのマンガのキャラがかっこいいから、とか、あのドラマの主人公みたいになりたいから、といったミーハーな理由で語っているに過ぎません。

別にそれが悪いとは言いませんよ。それを受験勉強に対するモチベーションに変えるには、まだまだ臨場感が足りないということですよ。

ほとんどの高校生は、学校と家とを往復するばかりの生活です。その環境のなかで「将来の夢」や「どの学部について、どんな職に就きたいか」を決めるだなんて、そもそもムリな話ではないでしょうか。

ですから、わたしたちは「本当にやりたいことは、大学で見つければいい」と指導しています。

大学生になれば、身を置く「環境」を、自由に選べるようになるからです。

人生の中で、大学生ほど時間もエネルギーも、自由に使える期間はありません。

いわば、社会に出るまでのモラトリアム（猶予期間）なのです。

現代の大学には専門性に縛られず、広く学べる学部も増えています。その環境をうまく活用して、自分が進む道を見つかる人はたくさんいます。ですから受験中に焦る必要はあ

りません。

大学には、無限の可能性があります。どの大学に合格するかも大切ですが、大学時代をどう過ごすかのほうが、もっと大切です。

ただし、自由と言えば聞こえはいいですが、自由には責任が伴います。より成長するか、墮落するか、自分次第なのです。

受験生のうちに、自分の“軸”をつくっておかなければ、周囲に流されて、ただ遊んで楽しいだけの大学生活で終わってしまおうでしょう。

“軸”をつくるには、漠然とで構いませんから、

「自分はこんな人間でありたい」

「こういう生き方がしたい」

という志を立てて、“本気”でそれを目指すことです。

幸い、ミスターステップアップには“本気”なれる環境が揃っています。

本気で勉強する塾生たち。そして、仕事や人生を本気で楽しんでいる大人が、たくさんいます。

「モチベーションアップの会」という、当塾独自の講義では、実社会で活躍する大人たちから、志に火がつくような熱い話を聞くことができます。

そして周囲のスタッフの中には、研究者、経営者、料理人、セミナー講師、エンジニア、整体師、歯科医、看護師、自衛隊、ライター、編集者、美容師、YouTuber、モデルからお笑い芸人まで、あらゆるジャンルを経験した大人たちがおり、社会のリアルな実態と熱い話を生で聞くことができます。

受験生でありながら、これほど恵まれた環境は他にないでしょう。

正直なところ、**世間の99%の受験生は、本気ではありません。**

「受験なんか早く終わつたらいいのに……」と思いつつながら、イヤイヤ、仕方なく、義務感で、ガマンしながら勉強している受験生が、実に多いのです。

裏を返せば、もしお子さんが、その**たった1%の本気の受験生**になることができたなら……、想像も超えるような逆転合格も、夢ではないということです。



子どもは叱られることよりも、  
手本を必要としている。

(ジョセフ・ジュノーベル  
フランスの哲学者)





*Principle 02*

# 愛 情 の 法 則

タフラブとソフトラブの  
両方が必要。

## おむすび争奪戦





## 意外すぎる合格の秘訣

「この塾生さん、集中力スゴイですね」

「なんでこんな、みんなヤル気あるんですか!?!」

ミスターステップアップを訪れた方から、何度、驚かれたでしょうか。

意外に思われるかもしれませんが、**その最大の秘密は、実は、ごはんに**あります。

大半の塾生は、わたしたちスタッフと一緒に毎日ごはんを食えます。

塾生たちのごはんを作るのは、「社員食堂ゆにわ」のスタッフたちです。

実は、この「ゆにわ」というお店は、ミスターステップアップの卒業生が立ち上げたお店です。わたし自身も、その立ち上げメンバーの一人です。

ほかにも、「御食事ゆにわ」「べじらーめんゆにわ」「茶肆ゆにわ」「パティスリーゆにわ」「シロフクコーヒー」「ゆにわマート」「ボディヒーリングサロンゆにわ」と、あわせて8つの系列店がミスターステツブアップのすぐ近くにありますが。(東京白金にも一店舗あります。)

塾の卒業生で、飲食店をはじめると、なんとも風変わりな話でしょうか？

けれど、そこには深いワケがあるのです。



なぜヤル気になれないのか？

南極老人が、この塾をはじめた頃の話です。

入塾してきたのは、決してマジメな生徒ばかりで





はありませんでした。

勉強なんて嫌い。行きたい大学もない。

なかには、タバコは吸うわ、夜中は駅前でスケボーするわ、クラブで踊って家には帰らないわで……、もう勉強どころじゃない不良生徒もいました。なにを隠そう、わたしもそのうちの一人でした。(笑)

そんな塾生たちは食生活が、もうむちゃくちゃ。

部活や予備校の帰り、毎日のようにコンビニやファストフードで買い食い。

寮生活で、カツプラーメンやジャンクフードを好きにだけ食べる。

ストレスを発散するように、夜中にお菓子、パン、スイーツ、ジュース…、甘いもの辛いものを食べまくる。



【現在】



【昔】



【現在】

高校時代の私(村田明彦)と妹のちこ。  
この頃は荒れていました…。

そのような食べ方を続けていると、空腹こそしのげて  
も、心は満たされません。

心に愛情が不足すると、ヤル気や根気、集中力がなくな  
り、勉強したくても、きちんと勉強に向き合えなくなっ  
ていくのです。

わたし自身も、ステップアップに入塾したときは、ま  
さにそんな状態でした。勉強はおろか、なぐんにもヤル  
気がせず、ぐったりとしていたのです。

同じころに入塾した同級生も、みな似たような状態。  
どう見ても勉強どころではありませんでした。

そんな様子を見た塾長・南極老人は、一言も「勉強し  
なさい」とは言わず、指導のかたわら、おいしい手料理  
をふるまってくれたのです。

手料理といっても、ただの料理ではありません。その



腕前は、三ツ星レストランのシェフが弟子入りを志願するほどで、それまで食べたどんな料理にも勝る美味しきでした。

それでいて、わが子を思っ作られたかのような、温もりがある。

そんな南極老人のあたたかみに触れていくうちに、1か月もすると、頭を占拠せんきよしていた雑念やイライラが消え、心が落ち着いてきました。そして、しぜんと「勉強したい」と思うようになり、さらに数か月もすると、夜遅くまで、何時間でも勉強に没頭できるようになっていたのです。

そんな変化が起きたのは、わたしだけではありませんでした。みんな春には思い思いの大学に合格していったのです。

どうしてこのようなことが起きたのでしょうか。



## 「愛情の法則」とは？

「イヤイヤ（勉強する）」

「しかたなく（勉強する）」

「どうせ（勉強しても……）」

という思いが心のどこかに残っているうちは、どんなに勉強しても成績は上がらないものです。

なぜなら、「イヤイヤ」「しかたなく」「どうせ……」という思い、さらに言うと、落ち着きのなさや、どっと疲れたような感覚は、エネルギーが消耗しているサインだからです。美味しいごはんは愛情のエネルギーに満たされると、ヤル気・根気・積極性・集中力が、しぜんに発揮されるので、勉強しなさい、と言う必要がなくなります。

**「人は愛情で満たされたとき、本当の力が目覚める」**

これが2つめの「愛情の法則」です。



## 愛情欲求と独立欲求

そもそも、人は潜在的に、2つの欲求を生まれ持ちます。

それが、「愛情欲求」と「独立欲求」です。

愛情欲求とは、「愛されたい、もっと自分のことを見てほしい」という欲求のこと。

独立欲求とは、「自立したい、一人前の人間に成長したい」という欲求のことです。

これらを満たすことが人間的成長、つまり、大人になるということなのです。

## 人間の根源的な2つの欲求

### 独立欲求

自立したい、自分で決めたい  
アイデンティティ（自己同一性）の確率

15歳頃

### 愛情欲求

愛されたい、認められたい  
他者からの承認によって安心感を得る

20歳を超えたら、社会的にはみんな大人です。

ところが、一つ目の「愛情欲求」が満たされていないければ、本当の意味で、大人になりきれないのです。

なぜ、こんな話をするのかと申しますと、大学受験においては、学力のみならず、精神的自立を果たしているかどうか、結果に大きな影響を与えるからです。

実際に、模擬試験ではA判定で、過去問では点がとれていたとしても、受験本番で失敗したり、実力を発揮できなかつたりして涙をのむ受験生が、毎年います。

大学受験は、たった数点の差で、合格・不合格が決まる、シビアな世界です。ですから、プレッシャーの中でも地道に勉強を続けて、本番の緊張状態の中でも、実力を発揮できるだけの「自立した心」を鍛えておく必要があるのです。

そのメンタルさえあれば、E判定でも逆転できます。



かわいいからと何でも与えるのは、

愛情とは違うのですよ。

忍耐を教える機会を親が奪ってしまうようでは、  
子どものためになるわけがないのです。



## 人には、器がある

「愛情欲求」が芽生えてくると、次は「独立欲求」が芽生えます。

すると受験生は、自分らしい人生を歩みたい、という気持ちから、自主的に勉強をはじめます。

高い目標に挑戦する気持ちや、自分の弱点と向き合おうとする勇氣は、「自立」への欲求があるから、わいてくるのです。

ただし、大学受験生は、とても複雑な年ごろです。

もちろん個人差はありますが、たいていは、まだ親から愛されたいと思っている。でも同時に、もう甘えていられない、という気持ちもある。

だから、親の愛情を素直に受け取ることができないのです。



そのため、進路を口出されたり、あれこれ決められたり、構われたりすることを嫌います。ましてや親御さんが心配をされると、一つめの法則でもお伝えした通り、逆効果になりかねないので。

こうした前提をふまえて、受験生の親御さんにお伝えしていることがあります。

とにかく、息子さん、娘さんのことを、信じてあげてください。

そして、お子さんが自発的に勉強するのを、ひたすら待つてあげてください。

本気に火がつくまで、毎日、美味しいごはんを作って、あたたかく見守っていただきたいのです。家を安心の場にしてあげてください。

人には、**愛情を受け取る「器」**があります。

その器の大きさは、一人ひとり違います。自立するまでに必要とする愛情の量は、人それぞれだということです。

たとえば、お子さんに

- ・落ち着きがない
- ・集中力がない
- ・ガッツがない
- ・何事も長続きしない
- ・人の話を聞かない

といった特徴が見られると、「どうしてウチの子はこんなにダメなんだろう」と、頭を抱える親御さんが少なくありません。

でも、大丈夫です。愛情の器が満たされたら、お子さんは変わります。

こんなことを書くと、ややもすれば「なんだ！うちの家庭に愛情が足りなかったって言うのか！」と、怒られてしまいそうですが、決して勘違いなさらないでください。わたしは、そんなことが言いたいわけではありません。

もともと、人の愛情の器というのは、両親からの愛情だけで埋められるものではないのです。兄弟、親戚、近所のおじさん、おばさん、学校の先生……、たくさんの人からの愛

情を受けて、やっと満たされていくものです。

ところが、現代の日本はどうでしょうか？

ご両親の負担が、あまりに大きい社会になっています。

一昔前まで、子育ては親だけの仕事ではありませんでした。

近所のおばちゃんやさんが世話を焼いて面倒みてくれたり、恐いおじさんが、悪いことをしたら怒ってくれたり。みんながあなたかく見守ってくれていました。

親戚も今より多かったので、周りの助けがあるから、お母さんは子育てに専念できました。ずっとおんぶに抱っこで、肌を密着させて育てることができたのです。

そして、愛情のこもった手料理を毎日、作ることができた。

しかし今や、そんな育て方を実現できるご家庭は少ないでしょう。

ほとんどが核家族。都会になるほど、ご近所さんとの付き合いはほとんどありません。一人っ子も多くて、遊ぶ相手がいないから、パソコンやゲームばかりに没頭する子どもも多い。

人と人との、あたたかみある関係が、結ばれにくい世の中なのです。

このようなご時世ですから、学習塾といえども、単に勉強さえ教えていけばいい時代ではなくなりました。私たちは考えています。教育者として、生徒に愛情のエネルギーを注ぐ役割の一端を担わなければならない。いや、担うべきだとすら思います。

最近では、就職も結婚もせず、自立できない大人が増えていると言われています。それもこの話と無関係ではありません。愛情欲求が満たされていないから、次の独立欲求の段階に進むことができないのです。

その自立を果たす最大のチャンスが、大学受験です。ですので、その応援ができるよう、わたしたちは塾




生の家族になったかのように、生活を共にします。

ミスターステップアップのスタッフには、厳しい父親的な人、優しい母親的な人、言いにくい相談を聞いてくれるお姉さんの人、困ったときに頼りになるお兄さんの人、会うたびに世話を焼いてくれる近所のおばちゃん的な人…、いろんな役割、キャラクタのスタッフがいますので、その様子は、本当に家族のようです。

そして、その信頼関係の結び目となるのが、「同じ釜の飯を食う」こと。

つまり、愛情いっぱい「食事」なのです。

 食べ方を変えたら、願いが叶う

「ミスターステップアップに通う塾生たちに

おいしくて、心が満たされるごはんを、毎日食べさせてあげたい」

そんな南極老人の思いを受け継いでオープンした店が、「ゆにわ」です。

添加物や化学調味料などは使用しません。自然の恵みをうけた食材を活かし、家族のごはんを作るように愛情をこめた、体にも心にも良いお食事です。

ミスターステップアップの塾生たちは、

「勉強でクタクタになっても、ごはん食べたら回復します」

「ごはんまで、あと〇時間！ って思ったら、集中力が続くんすよ」

と、みんな目に見えて元気になり、それに比例するように成績が伸びていくのです。

わたしたちは、塾生のごはんのことを「まかない」と呼んでいます。

「まかない」とは本来、料理人が作る、自分たちのごはんのことですが、

「毎日のごはんが、みんなの真の願いを叶えるごはんであるように」

という思いを込めて…、「真叶まかない」と呼ぶようになりました。

そんな「ゆにわ」も、オープンから十年以上の月日が流れ、今やありがたいことに全国からお客様の訪れる有名店になっています。

広く知られるようになったきっかけは、「ゆにわ」の店長ちこが出版した書籍がベストセラーになったことでした。塾生から「ちこ店長」と慕われている彼女は、実はわたしの妹です。彼女も、わたしが卒業したあとに、ミスターステップアツプに通っていました。

もし、ご興味がありましたら、ぜひ、ちこの書籍も手にとってみてください。わたしたちが食にこめた思いが綴られています。

また2017年には、『美味しいごはん』というタイトルで映画化。これまで国内外で自主上映され、およそ1万人の方にご覧いただいています。

はじめは数名だった塾生も年々増えて、今や毎日200食以上！それでも食材に妥協しないのはもちろんのこと、一食一食に懸ける愛情は変わりません。



塾のすぐそばにある「社員食堂ゆにわ」にて塾生たちは毎日スタッフとごはんを食べます。

近年は、共働きのご家庭や一人っ子が増え、また、夜の予備校通いもあって、一人で外食する受験生も少なくないようです。

親御さんからは、子どものために手料理を作ってあげたいけど、忙しくて毎日はずかしい、との声もよくお聞きします。

そんな親御さまこそ、入塾説明に来られる際には、ぜひ「ゆにわ」にお立ち寄りください。

塾生たちが食べる「まかない」と同じメニューをご用意しています。

「こんなごはんを毎日食べられるなら、絶対がんばれる！」と、そのごはんが入塾を決めた生徒が過去に何人もいるくらいですので、生徒になったつもりで、味わっていただけたら幸いです。



美味しいごはん上映会  
石清水八幡宮 清峯殿にて





*Principle 08*

# 観測者効果の法則

見たとおりの世界が、現実になる。

まさかそうくるとは…





### たつた一言が運命を分ける

わたしは、受験のプロとして、数えきれないほど受験生の相談に乗ってきました。そのなかで、いちばん多い悩みは、何だと思われませんか？

実は、勉強のことではありません。いえ、だいたい最初は「勉強が進まなくて…」と相談に来るんですよ。でも掘り下げると、別の理由があることがほとんどです。

**最も多いのは、親子関係の悩み**です。親子間に、なんらかの問題があるせいで、勉強が手につかなくなっているのです。

親御さんとしては、ジャマするつもりなんて、さらさらないのです。当然ですよ、ね、わが子の受験なのですから。いちばんの応援者でありたい。そう望まれているはずでしょう。

それなのに、ふとした時の態度や、言葉のチョイスや、コミュニケーションの齟齬そごなど

によって、かみあわなくなってしまうているなんて、同じ「合格」を目指しているのに、本当にもつたいないことです。

お子さんへの接し方について、親御さんにお伝えたいことは山のようにあります。親の影響力は絶大であるがゆえに、それがプラスに働けば、受験は圧倒的有利になりますから。

実際に、伸るか<sup>の</sup>反るか<sup>そ</sup>の瀬戸際<sup>せとぎわ</sup>で、親御さんのあの一言があったから合格が決まった、なんていう例も少なくありません。

ここからは、ある失敗例と成功例をもとに、親の理想的な接し方についてお伝えしていきます。



## 崖っぷちから早稲田に合格した東くん

かつてステップアップにいた東君。早稲田志望の一浪でした。

夏頃から順調に成績が伸びはじめ、いよいよ夢見ていた早稲田に手が届くかも、というところまでできていました。ところがです。

思いもよらぬ事態が、彼を襲います。

滑り止めで受けた、早稲田よりワンランク下の明治大学に、落ちてしまったのです。次こそは、と気を持ち直して受けた立教大学も、不合格。また次も、そのまた次も……。

立て続けの不合格で、日に日に青ざめていく東くん。

なんと、滑り止めのMARCH（明治大学、青山学院大学、立教大学、中央大学、法政大学）に、“全落ち”してしまったのです。

残すところ、最難関の早稲田だけ。どうしよう。親に合わせる顔がない……。ふだんは楽天的な彼も、このときばかりはもう涙目です。

彼の父親は会社の社長で、ものすごく厳格な人でした。きっと父親から、どやされるに違いない……。ビクビク震えながら、彼は父親に報告にいったのです。

すると父親から返ってきたのは……、

**「大丈夫だ。まだ早稲田があるじゃないか」**

予想だにしない一言でした。もう早稲田しかない、じゃなくて、まだ早稲田がある!?

そうだ。確かに、自分がいちばん行きたいのは、早稲田なんだ！ なに弱気になってんだ。ここからが本番じゃないか！

完全に気持ち切り替わった東くん。渦巻いていた不安は消え、一心不乱に試験に臨みました。

そして早稲田大学に、見事、合格したのです。

いかがでしょうか。もしもあなたに、同じ場面が訪れたとしたら……。どんな風に声をかけられたでしょう。

「二年間、何やってたんだ！」

「せっかくお金かけてるのに！」

「滑り止めに落ちて早稲田に受かるわけがないだろ！」

感情的になって、つい一言、口をついて出てしまっていたら、たったそれだけで第一志望合格は幻まぼろしとなっていたかもしれない。



### 優秀な西原君が本番で大失敗した理由

東くんとは対象的に、模試ではすごい成績をとるのに、いざ本番となると、信じられないような大失点をする事例も、過去にたくさんありました。

たとえば数年前に塾生だった、医学部志望の西原くん。

彼は九州の親元を離れ、一人暮らしをして勉強に打ち込んでいました。

秋に受けた模試では、数学偏差値70以上。第一志望A判定。成績は文句なしです。ところが、センター試験本番が近づくにつれ、好調にかげりが見えはじめます。

受験には関係のない、どうでもいいおしゃべりが増えていったのです。一番多い話題は、家族の自慢話でした。彼がそうやって不安をまぎらわそうとしているということは、講師の目から見れば明らかでした。

そんな彼は、センター試験本番で、とんでもない結果を残します。

英語の点数が、200点満点中、なんと110点。

過去問ではコンスタントに9割(180点)以上を得点していたのに、本番で点数がガタ落ちしたのです。10点20点ならまだしも、センター英語でここまで点がブレるなんて考えられません。大学受験の経験者なら、おわかりいただけるでしょう。例えるなら、プロ格闘家を通りすがりの高校生にケンカで負けるくらいの確率で、ありえないことなのです。さらに、ほかの教科も、結果はさんざんでした。

なぜ……？ わたしはピンとききました。ああ、きっと両親が関係していると。

そして西原くんに聞きました。



「この点数の原因は？ 何かふだんと違うことはなかったかい？」

すると彼は答えます。

「え、いや、じつは…、センター前日に、親が下宿先に泊まりに来て。べつに応援のために来てくれたから、ふつうに話してただけなんですけど…。」

そう言いながら、しどろもどろなのです。

「受験前に、一言、応援の声をかけたくて」と、ご両親はわざわざ九州から来られていたそうです。もし事前にご連絡があれば、わたしは止めたでしょう。それが彼に良い影響を与えないということが予想できたからです。

「そんな！ ひと目会うくらい、別にいいじゃないか！」と思われるかもしれませんが、ええ、確かに、それくらいで影響を受けない生徒なら、問題なかったのかもしれませんが。

しかし、彼の場合は別でした。

彼は一年間、親元を離れてがんばっていました。さみしさとも戦っていました。わたし

はそれを、いちばん間近で見ってきた。だからこそ、ご両親には、最後の最後まで、見守っていてほしかったのです。信じてあげてほしかった。

「もう、あんたは一人で大丈夫だから」

そういうお気持ちで堂々と構えていたら、それこそが西原くんの一年間を称える、最高の声援になったはずです。

「まあ、たった一晚、顔を見せるくらいなら……」「きっと喜ぶだろうし」という行動の裏にあるのは……、「不安」であり、自分（親）自身が安心したい、という気持ちです。

たとえ「がんばれ」という言葉でも、**その裏にあるのが「信頼」か「不安」**かによって、その効力は180度ちがう方向に働くのです。

西原くんのエピソードは、決して極端な例ではありません。

**親への依存心に引きずられて、受験直前で弱気になって、本番で実力を出しきれない受験生**は本当に多いのです。

幼いころから慣れ親しんだ家庭というのは、それほど甘えの原因になりやすい。そのことを受験生も、親御さまも、忘れてはならないのです。

たとえば、ずっと親元を離れて勉強に打ち込んでいたのに、たった一度、親に連絡をとっただけで

・ つい、電話が長くなって時間をムダにしてしまう

・ 甘えの気持ちが出てきてホームシックになる

・ 気が緩んで急に勉強のペースが落ちる

そのわずかな油断で合格を逃したことが、わたしの知る限りでも何度あったでしょうか。それは親御さんにとっても、望まれないことでしょう。

**受験は、最終的には一人の戦い**です。

まわりの大人がいくらか心配しても、受験会場にまでついていくことはできません。四六時中、見守っているわけにもいきません。

だから、自分の足で立てるように、親はいつか、厳しい愛をもって、突き放さなければ

ならない時がきます。その時なのです。人生の大逆転が起こるのは。

大学受験は「親離れ・子離れ」を試す通過儀礼である、とも言えるでしょう。



### 「観測者効果の法則」とは？

「観測者効果」という言葉をご存知でしょうか。

量子力学においては、「観察する（見る）」という行為そのものが、「観察される現象（見られるもの）」に、なんらかの変化を与えることを意味します。

難しい話はさておき、わたしが申し上げたいのは、「観測者効果」は、人と人との関係にも成り立ちますよ、ということですよ。

つまり、人は「他人からどんな目（意識）で見られているか」によって、行動や性格ま

でもが、無意識のうちに変化するのです。

先ほどの、東くんの成功例と、西原くんの失敗例で言えば、両者の運命を決めたのは、親御さんが子どもを「見る目」の違いでした。

東くんのお父さんは、日頃から、息子のことを「いちおとな大人」として見ていました。だから、とっさに「まだ早稲田がある」という言葉が出たのです。

かたや、あくまでも子どもは子ども、という目線で見えてしまうと、その「観測者効果」によって、何歳になっても精神的に「子ども」を卒業できないままになる。

自分で自分の選択に、責任を持たない。

自分の問題は自分でなんとかする、という気概が生まれない。

よって、大学受験でも、ここ一番の勝負に勝てないのです。



## 子どもの本当の顔は見えない

一つ、大事なお話をしましょう。

親は、いちばん子どもの近くにいます。実は最もその成長が見えにくい、というお話です。

なぜなら、**子どもは「親に見せる顔」と「外で見せる顔」**が違うからです。

たとえば、家では大人しくて一言もしゃべらない子が、学校ではおしゃべりでクラスの人気者だったり、部活ではリーダーシップをとっている、なんてことはよくあります。逆のケースもあります。

入塾説明に親御さんと来られたときは明るくふるまっていたけれど、実際に入塾してから話を聞いたら、誰にも言えない悩みを抱えていた、とか、志望する進路が全然ちがって

いた、なんてこともざらにあります。

相手によって「見せる顔」が変わるのは、幼少期から始まります。

わたしには、2歳の娘がいます。娘の様子を見ていて、最近、おもしろいことに気がつきました。娘が大泣きする直前、瞬時に周りを見回して、近くに誰がいるかチェックしているのです。そして、声が届く範囲にお母さんがいるのを確認してから、一気に「ワーン！」と泣き出す。つまり、お母さんがあやしに来てくれるのを狙って、意図的に泣いているということ。わが子ながら、したたかですよ。（笑）

また逆もあります。大声で泣いていても、誰もあやしに来てくれないとわかると、ピタッと泣き止む。そして1秒後には、ケロッとしているのです。

こういった態度の変化は、他の子どもたちにも見られることです。

親の前では、すぐに弱い顔を見せるので、親はその顔しか知りません。その姿だけを見て、「この子は弱い子だから」「○○が苦手な子だから」と思い込んでしまう。

だから、甘やかしている、という自覚も生まれにくいのです。そうして親は子を甘やかし、子は親に依存する、という関係が続きます。

事実、大学受験の年齢になっても、「甘えグセ」が尾を引いてしまう人が、思いのほか多いのです。



## 脱！ 甘えの構造

幼い子どもは、「親の助けがないと、生きられない」と、よく知っています。

だから、どんな手を使ってでも、親の関心を得ようとする。褒められるために必死に頑張る子もいれば、親を困らせてでも気を引こうとする子もいます。

親は、このような子どもの本能を理解して向き合わないと、カンタンに子どもに操られてしまいます。もちろん、10代後半期になっても、それは変わりません。

子どもは無意識のうちに、自分の両親が、どういう時に自分を構ってくれるかを、学習しています。弱い自分を演じれば、優しくしてくれる、と分かったら、ツライことがある度に、いとも簡単に弱い自分になるうとしますので。




受験生の場合、勉強がツラくなったりとたん、体調をくずす、泣き言を言う、投げ出す、といった、「弱い自分」になってしまいます。それで親が「仕方ないわね」と言ってくれたらシメタモノ。向き合いたくない課題から、逃げられるのですから。

受験勉強は、本能との戦いです。

甘えたいときは甘える。眠くなったら寝る。しんどくなったら楽な道へ逃げる。それでは、勝てるはずの勝負にも勝てません。

ですから、親が甘やかしてしまうと、どんな塾や予備校に通っても成績は頭打ちになるのです。

ただし、子どもが本当に、助けを求めているときは、手を差し伸べることも必要です。このバランス感覚こそ、子育ての真髄といっても過言ではないのです。



## 正しい、期待の持ち方

「ピグマリオン効果」をご存知でしょうか？

ピグマリオン効果とは、人は他者から期待されることによって能力が向上するという現象のことです。これは実験でも証明されています。

人は誰からも期待されていなければ、何事もがんばりませんからね。みんなから「あなたはやればできる！」と言われたら、本当にできそうな気持ちになってきます。

しかし、期待の持ち方を間違えると、むしろ逆効果になることもあります。卒業生のまゆみさん（仮名）の例をご紹介します。

お母さまは、まゆみさんに「国公立の大学に行ってほしい」という期待が強くなりました。

そのため、毎日、口を開けば、国公立、国公立……。

まゆみさんは、そんな母親の言葉を聞き続けていました。

そして、センター試験の当日。

まゆみさんは問題用紙と向き合ったとたん、「国立しかダメよ!」という母親の言葉が脳裏をよぎります。

それからの彼女は、もしこれで失敗したら……と、プレッシャーで潰れそうになり、頭の中は真っ白に。一つわからない問題があるだけで、「ダメだ、もう家に帰れない」という恐怖心でいっぱいになり、試験では全く力を発揮できませんでした。

わたしは彼女の報告を聞いて、「試験会場で、そんな気持ちになったことを、そのままお母さんに伝えなさい」と言いました。

その後、お母さまは、ご自身の与える圧力が、良い影響になってないことに気づき、何も言わなくなったそうです。すると、まゆみさんは調子を取り戻し、私立の入試では、全力を出すことができました。

結果、私立では逆転合格を勝ち取ったのです。

**親の期待は、もうは諸刃の剣です。**

過度な期待はプレッシャーを生み、能力を削いでしまうかもしれません。

どうか「結果」に期待するのではなく、「可能性」に期待してあげてください。

どんな結果になろうとも、あなたは素晴らしい人間だ。絶対に最後はなんとかなる。いつもそういう目で見てあげるといふことです。

そうすれば子どもは大きな安心の中で、自分の全力を出し切れるのです。



### 最強のチームワーク

当塾の浪人生は、ほとんどが塾の近くに一人暮らしをしています。ですから、しぜんと親元を離れることになります。地元の友だちに会うこともありません。

ハッキリ言いまして、これは**受験生にとって最高の環境**です。

もちろん、入塾したての頃は、親元を離れて寂しいという生徒もいます。また、子ども  
のことが心配だったり、いなくなつて寂しいという親御さんもおられます。

しかし、そういう気持ちがあればあるほど、こと大学受験においては、いったん親元を  
離れた環境に身をおくのが得策なのです。

「かわいい子には旅をさせよ」と言うではありませんか。

人が自立を果たすときには、

母なる愛 (Soft Love・構ってあげること) だけでなく、

父なる愛 (Tough Love・厳しく突き放すこと) も必要です。

その試練を経て精神的自立を果たしたとき、お子さんの秘めたる力が、いよいよ開花す  
るのです。

将来を左右する重要な進路を、他人に任せるのは勇気がいることかもしれません。

けれど、世の中のリーダーと言われる存在は、親元を離れ、信頼できる指導者から学んでいることが大半です。

たとえば、幼少期に視力、聴力を失い、話すこともできなくなったヘレン・ケラーを導いたのは、アン・サリバンという家庭教師です。

明治天皇の教育係は、山岡鉄舟てっしゅうという剣術の達人でした。明治天皇が夜な夜な女官の部屋に忍び込もうとしたときに「陛下！ 何をやっている」と言って、天皇陛下を投げ飛ばしたというエピソードが残っているくらいの豪傑ごうけつです。

各国の王様や社会のリーダーとなる人物は、教育のプロから指導を受けているものです。その領域に親は



アン・サリバン

出典：米非営利団体ニューイングランド歴史系図協会



山岡鉄舟

出典：福井市立郷土歴史博物館所蔵品

立ち入らない。それが暗黙のルールなのです。

今の時代は、厳しい教育というよりは、その子を傷つけてはいけない、だからほめて育てる、という考えがあります。もちろん、ほめる、認める、というのは、悪いことではありませんが、これに囚われると、甘くなりがちです。ほめなくていいところで、やたらほめてしまう。

子どもがそれを当たり前だと思ってしまうと、社会を乗り越える力が育ちません。社会に出た時に、上司がほめてくれないからといって、働かないわけにはいきませんから。

大学受験は、もう社会の入り口です。

「厳しい先生のもとで、痛い目にあっておいで」と送り出すような気持ちで、背中を押しあげるくらいが、ちょうどいいのです。

ぜひわたしたちのことを信じて、受験のことは全てお任せください。

わたしたちは、大学受験のプロ集団です。

全国十万人以上の受験生のバイブルとなっている『大逆転勉強法』『限界突破勉強法』と、

これまで十年以上、のべ数千人の受験生を合格へ導いてきた経験とノウハウがあります。

あとは、「**受験生**」「**塾**」「**親御さま**」の**トライアングル**で、最高のチームワークを発揮することができれば、逆転合格も夢ではありません。

過去はどうあれ、お子さんがこれから立派に成長していくことを信じて、どうか見守っててください。最後の最後まで、信じてあげてください。

たとえ離れていても、あたたかい眼差まなざしは届きますから。





## おわりに

わたしが高校時代、通っていた高校は、極端に間違った勉強法を実践していました。

朝は、小テストから始まります。そのテストで合格点がとれなければ、その日の夜8時まで残ってやり直しをさせられます。やり直しと言っても、間違えた単語を100回書くとか、計算練習を100問やる、といった機械的な作業です。

また、定期テストで一定の点数がとれなかったメンバーは、自動的に「勉強クラブ」に入らされ、放課後ひたすら勉強をさせられます。強制なので、ヤル気のある生徒は一人もいません。だらけた空気が元気を奪います。

毎日のように宿題は山積み。翌日の予習は必須。やっていかなければ教師から目をつけられます。一度、目をつけられたら最後、何か一言でも教師に口答えをしようものなら、辞書で殴られる。

とにかく校則が多く、まるで軍隊でした。ここまで束縛がキツイ学校は珍しいと、後でわかりましたが、当時のわたしたちはそれが日常だったのです。

何のためにこんな窮屈きゆうくつな生活を強いられるのか、なぜこんなにも課題が多いのか、教師からの説明や動機付けの言葉はほとんどありません。せいぜい「浪人すると、社会に出るのが一年遅れるから」というぐらいです。

そうになると、生徒たちもだんだんフラストレーションがたまり、反発心がわいてきます。そのはけ口を求めて、悪い方向に進む子や、学校をやめてしまう子もいました。反発心がクラス単位になると、クラス中が結託してカンニング大会です。定期テストの時、試験監督の先生はたいてい居眠りしているので、その隙にクラスで勉強ができる子の答案が回ってくるのです。その光景はまるでマンガのようでした。

わたしの通っていた高校では、このようなことは日常茶飯事でした。学年が上がるごとに真面目に勉強する生徒が減っていきます。進学校とは名ばかりで、まじめに先生の言うことを聞けば聞くほど、従順なロボットのようになっていくのです。



やればやるほど、ダメになる勉強

受験勉強は、「結果」だけを重視すると人としてのバランスを失いかねません。

結果以前に大切なのは、勉強する目的を見出すことです。

わたしたちの塾では、まず塾生たちが、自ら「知りたい！」と好奇心がわくような、社会の話をしませす。

最先端の技術、古典や哲学、医療業界、飲食業界、芸能界、成功者の裏側、など。

世の中のこと深く知れば、なぜ、勉強が必要なのか、自ずとわかってきます。本物の勉強がはじまるのは、そうした目的意識が芽生えてから、なのです。

かくいうわたしも、塾生時代は、受験勉強ではなく、塾長先生が話してくださる世の中の話聞いてから、勉強に目覚めました。

先生の話聞いて、世の中に対する疑問がどんどん明かされていくと、また次の疑問が

わいてくる。好奇心や探求心が刺激され、気が付いたら自分でも本やネットで調べるようになっていきました。

そのうち、先生の話についていくには、自分も頭を使って勉強することが不可欠だと気づいたのです。

わたしはやっと受験勉強を始めました。

塾長先生は、一人で五教科を教える受験指導の達人でした。

浪人生の頃は全国模試で、5教科11科目、全てにおいて全国一位を獲得した方です。

どんな質問をしても、わからないことはなく、それどころか、誰も教えてくれないような深さで、答えてくださるのです。

わたしも、先生みたいに勉強を楽しみたい、世の中のことを面白く語れるようになりたい、先生にもっとついていきたい、と思いました。

先生の浪人時代に負けなくらい努力しよう、と自然に思えたのです。

勉強の目的が見つかり、世の中のことを知りたい、と思うようになって、勉強との向き合い方が変わりました。

受験勉強の目標は“大学合格”ではなく、その先の“未来”や“社会”にある。そこに向かっていけばいいんだ、と思うようになったのです。

「大学に合格しなければ…」

「もっと成績を上げなければ…」

と、受験勉強に対して義務的だった気持ちだが、

「もっと学びたい」

「もっと成長したい」

「憧れの人に近づきたい」

という自発的な気持ちに変わっていったのです。

そうすると…

勉強が苦くではなくなりました。

今を精一杯に生き、後悔しない毎日を送れるようになります。

最後の最後まで、ベストを尽くす気力が満ちてきます。

直観が冴え、頭が良くなるのです。

何よりわたしは、塾長先生のおかげで、いつの間にかこのような「勝ち方」が身につきました。

おかげで大学に合格しても、燃え尽きることも、浮かれすぎることありませんでした。大学生になっても周囲に流されることなく、その先の未来に向かって歩み続けることができました。



大学受験で自立したら、未来が開ける

わたしたちは、いつも受験生に願っていることがあります。

希望の大学に受かってほしいのはもちろん。

大学を卒業してからの10年後、20年後も、ずっと幸せでいてほしい、と。

きつと親御さまも、同じ思いではないでしょうか。

たとえ、第一志望に合格しても、大学生になってウツになるとか、就職して働き始めても、理由もなくやめてしまうとか、一人ぼっちで孤独な毎日を送っていたりしたら、教育としては失敗です。

受験の合否は、試験後すぐ数週間でわかりますが、教育の結果は、いつ現れるかわかりません。ですが、わたしたちは、そこを大事にしているのです。

すると、いつのまにか、

- ・ 勉強へのヤル気が復活して、去年の倍以上は勉強している
  - ・ ムリだと思っていた第一志望に逆転合格できた
  - ・ 未来の目標が見つかって、大学に入ってから勉強が楽しい
  - ・ 塾で教わったことを、自分も誰かに伝えたいと思い、教師になった
- という塾生が、次々に現れるようになったのです。

わたしたち講師は、創始者である南極老人から、帝王学を受け継ぎました。帝王学とは、多くの人を幸せにする世のリーダーになるための、本質的な学問のことです。あらゆる分野に応用できる、人生の原理原則です。

わたしたちの塾の指導方針は、まさに、この帝王学に基づいています。

あなたのお子さまが、自分の才能を発揮し、リーダーとなって社会で活躍している。そんな未来を思い描きながら、受験生活をサポートしていただけたら幸いです。

塾講師として、一人の教育者として、また一人間として、わたしたちもお子さまを全力で応援します。

大学受験塾ミスターステップアップ塾長 村田 明彦





<https://mrstepup.jp/>

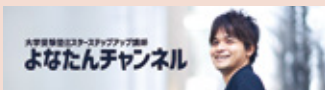


当塾について知りたい方は、  
公式HPをご覧ください



YouTubeでは、  
勉強法やモチベーションアップの方法を解説

親子カウンセラーむらっち



よなたんチャンネル



リケジョの相談室 / ゆばしおり



LINE@では、  
受験に役立つ情報や、塾の日常をお届け



<https://mrstepup.jp/lp/jukuline/>

# Profile

〈著者〉

大学受験塾ミスターステップアップ塾長

村田明彦

MURATA AKIHIKO



同志社大学在学中に読んだ本の冊数は、2,000冊以上。話を聞くだけで成績アップの秘訣がわかり、人生において、どう生きれば成功と幸福を同時に手に入れられるのかがわかる『大逆転勉強法』『限界突破勉強法』受験指導の後継者。全国の高校からは、受験生と受験生を持つ親御さん向けの講演依頼が殺到しており、講演参加者はのべ数千人以上にものぼる。